



たてやま

おらがんまつち

南総祭礼研究会

2016.12 No.32



地域の紹介

館山城の城下町として栄えた歴史ある町で、昭和の時代には館山劇場を始め、料亭、芸妓置屋、検番撞玉場、カフェなどが軒を並べ、歓楽街としての賑やかな頃もありました。現在は館山地区の商店街として、また城山を望む閑静な住宅地となつています。

城山の麓にある上仲公園は、関東大震災前まで諏訪神社が鎮座しており、今でもその面影が残る区民の憩いの場所となっています。

百七十五世帯ほどの人々が暮らす小さな地域ながら、何事にも子どもから高齢の方までが一体となった交流の深さが伺える地区です。

自慢の山車

山車は明治二十八年に地元大工の吉田竹次郎によって制作されました。山車全体に施される彫刻は、国分の名工・後藤喜三郎橘義信の手によるものです。正面中央に鳳凰を配し、高欄には龍虎麒麟、欄間に七福神、そして正面の二本柱には龍が巻きついた迫力ある彫刻が生き生きと彫られています。

平成九年には大改修が行われ、平成二十五年には上幕と大幕が新調されました。山車人形は隣の下町区の山車人形「伊弉冉尊」と夫婦神と言われる「伊弉諾尊(いざなぎのみこと)」です。

お囃子は「びつとこと」「しつちよめん」が中心となるため、お囃子に合うように高めの音の大大鼓をつけています。また梶棒がよく切れるため「キリン(山車を浮かせて回転させる装置)」がついていないことや車体が低くされていることなど、特徴ある山車となっています。

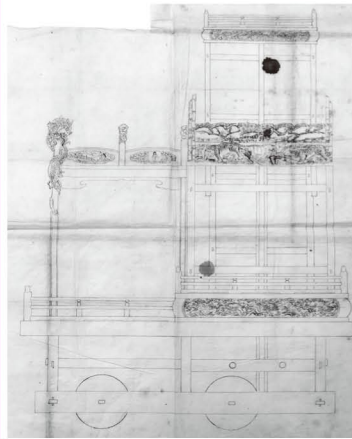
仲町

館山市館山地区



近後画

- 制作年…明治二十八年 ●大工…吉田竹次郎
- 彫刻師…後藤喜三郎橘義信 ●山車額…仲町
- 上幕…鶴 ●大幕…波に亀 ●泥幕…波に千鳥
- 人形…伊弉諾尊 ●提灯…巴紋に仲町
- 半纏…狐面に仲町



山車新調時の設計図と彫刻案の下絵 (館山市立博物館 蔵)



正面上部の後藤喜三郎橘義信による見事な彫刻